



<https://www.hcr.or.jp>

International Home Care & Rehabilitation Exhibition

CONTENTS

NEW YEAR H.C.R. 2021	1	7 その他情報提供	5
オンラインイベント		東京ビッグサイトに、円滑な移動方法の確保と展示会場の環境整備に関する要望書を提出しました!	5
「福祉機器Web2020」ご報告		新型コロナウイルス禍における福祉機器の販売・開発への影響～集計結果報告～	6
1 オープニング・あいさつ映像	2	TOPICS 障害者雇用・福祉施策の連携強化に関する検討会が行われました!	7
2 総アクセス数 80万	2	出版物のご案内	8
3 出展社 355社・団体	2		
4 ウェビナー (Webセミナー)	2		
5 福祉分野最新レポート	4		
6 出展社/製品検索ページ	5		

編集・発行:



一般財団法人

保健福祉広報協会

HEALTH AND WELFARE INFORMATION ASSOCIATION

住所: 〒100-8980

東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

NEW YEAR H.C.R. 2021

2021年のH.C.R.はリアルとオンラインを用いたハイブリッド開催を予定!

H.C.R.は、「見て触れて確かめる」という福祉機器を実際に体験することができる機会を提供するアジア最大級の福祉機器展示会です。昨年12月1日にH.C.R. 2021開催のお知らせを公表したところ、福祉機器ユーザーの皆さまからも、直接のご来場が可能となる2021年の開催に期待の声をたくさんお寄せいただいています。

「第48回国際福祉機器展H.C.R. 2021」は、東京オリンピック・パラリンピック開催のため、東京ビッグサイト青海展示棟へ会場を移し、最新情報の発信と共有の機会としてH.C.R.が有意義な場となるよう努めてまいります。

とくに、国連・国際障害者年40周年となる本年、本会がかかげる「ともに生きる豊かな社会の実現」をめざし、SDGsへの着目と地域共生社会づくりを推進するべく、取り組みをすすめてまいります。これまでの

国際福祉機器展H.C.R.の流れをくみつつ、オンラインイベント「福祉機器Web2020」で得た知見などをふまえ、リアルとオンラインそれぞれの利点を活かした「ハイブリッド開催」という新たな試みの方向性を持ち、より一層充実した展示会の開催と福祉機器や介護・福祉分野における積極的な情報提供に尽力してまいります。

第48回 国際福祉機器展H.C.R. 2021

主催	全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
会期	2021年11月10日(水)～11月12日(金)
会場	東京ビッグサイト 青海展示棟 (23,200㎡)
出展申込	出展要項の調整等が済みしだい、別途ご案内いたします。

「新しい生活様式」への転換の時代 福祉機器の役割はさらに高まっています

2020年は、世界中で新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態により、日本社会も厳しい状況下の一年となりました。

東京ビッグサイトで開催を予定していた「第47回国際福祉機器展H.C.R. 2020」はコロナ禍の影響により、やむなく中止とし、その代替としてオンラインイベント「福祉機器Web2020」を展開しました。2020年12月25日現在で、80万アクセスをいただいています。

「福祉機器Web2020」では、355社・1400点超の最新の福祉機器情報の公開とともに、「ニューノーマル時代の福祉とICT ～時間と空間を越える福祉へ～」などをテーマとするウェビナーの配信、福祉分野に関わる最新レポートの公開など、さまざまな情報をWebサイト上でお届けしました。「いつでも・どこでも」ご覧いただけるオンラインならではの長は、コロナ禍での感染拡大リスクの回避と、一方でこれまで展示会に参加できなかった方々や、時間に限りがある方がたなどに向けてオンラインでの有益な情報提供の場となりました。一部レポートやウェビナーは2021年3月末まで公開、出展社/製品検索機能につきましてはH.C.R. 2021の出展社・製品情報に差し替える今秋までご利用が可能です。ぜひご覧ください。

福祉機器関連企業・団体においては、本会調査「新型コロナウイルス禍における福祉機器の販売・開発への影響 (本誌6-7頁掲載)」の結果からも大きな影響が出ていることが明らかとなりました。なかでも「展示会等のイベント中止などによる機会の損失・減少」が最も多い(84.3%)という回答から、広報活動と普及への影響が厳しかったことが伺えます。

また、高齢者・障害者などの福祉施設および在宅介護サービス事業所などにおいては、感染による重症化リスクも懸念されることから、サービス提供者としてさまざまな感染予防に取り組まれてきました。それにより、先進国のなかでも福祉現場での感染症拡大を一定程度防いできています。

そうした状況下で、福祉機器への期待は一層高まっています。福祉機器は、これまでの高齢者・障害者の自立支援・重度化防止や介護負担軽減という利用とともに、感染症リスクの軽減や予防に資するという新たなニーズに応えるために積極的な導入と活用工夫がすすんでいます。

Withコロナ時代をふまえての生活環境づくりに向けた福祉機器の開発促進・普及も求められるところです。